

日本都市社会学会ニュース

NO. 90 (2011.11.9)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒480-1198 愛知県長久手町大字熊張

愛知県立大学教育福祉学部・山本かほり研究室

e-mail:usocio11@ews.aichi-pu.ac.jp fax:0561-64-1107

(振替口座：00140-4-703976) URL：http://wwwsoc.nii.ac.jp/urbansocio/

会長就任にあたって

谷 富夫 (甲南大学)

1982年5月17日、本学会の設立総会が九州大学で開かれました。会員わずか80名による旗揚げでした。設立の世話人代表で初代会長の鈴木広九大名誉教授が当時、その心境を毎日新聞文化欄にこう綴っています。「まだ哺育器に入っている赤ん坊の学会で、当分の間は注意ぶかく、将来を考えながら、心身ともに健やかに育てあげていかねばならない。実際、私が生みの親なので、何とかこの子を一人前にしたいと、早くも情がうつって親馬鹿の心境である」(1982.6.11夕刊)。

来年が30周年です。人間で30歳といえば、もう一人前の大人です。学会も会員が300名を越え、立派に成人しました。一方、私ですが、設立総会翌年の第1回大会で事務局長を務めて以来、文字通りこの学会に育ててもらったにもかかわらず、この間どれだけの仕事をなしたかと自問すれば内心忸怩たるものがあります。会長に選出されたことはまさに青天の霹靂です。

この30年間、都市社会学研究の焦点と地平はかなり多様化したと思います。そもそも本学会設立の趣旨は、学会をあげて次の二つのテーマに取り組むことでした。「目をアメリカからアジアに移して都市社会学理論のパラダイム変革をめざすこと」と、「低成長・高齢化都市におけるコミュニティの可能性の探究」です(同上新聞より)。これらの課題が今なお課題たりえている現状に鑑みて、先達の方々の強靱なエトスと、将来を見通す鋭い眼力に今さらながら驚嘆します。しかしその後、都市と都市を取り巻く環境が大きく変化したことも確かです。とくに80年代後半からグローバル化と市場原理主義が日本都市の構造と生活に及ぼしている甚大な影響を、当時どれだけの人が予測しえたでしょうか。そこに本年3月、東日本大震災が発生しました。これが当分の間、この学会でも重要課題の一つになることは申すまでもありません。

累積し、複合する都市社会学の諸問題に取り組む会員の皆様が少しでも活動しやすいように環境を整えることが、学会運営を担う私どもの使命と心得ています。町村敬志前会長からの引継ぎ事項を精査し、問題点があれば改善し、会員へのサービス向上に繋げたいと思いますので、皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

第29回大会の報告

加来 和典 (下関市立大学)

日本都市社会学会第29回大会は、9月7日(水)と8日(木)の2日間にわたって、新潟大学五十嵐キャンパスにて開催されました。参加者は、84名(会員77名、非会員7名)でした。

今大会では、新たな企画としてテーマ報告部会が設けられました。共通テーマ「都市とサブカルチャー」に対して応募された4本の報告が、初日午前中に行われました。

自由報告部会は、いずれも午前中に、初日に1部会、2日目に2部会が設けられ、全13報告がなされました。プログラムの都合ですべての報告を聴くことができなかったのは残念でした。筆者のまったくの個人的感想ですが、

防衛省資料を用いた軍用地と都市形成の研究（武田報告），道路計画におけるアクター間の相互作用の地域比較分析（小山報告），「創造都市」への異なったアプローチの2報告（山本報告・金報告）などが印象的でした。

ことは大きな災害の年でした。本大会では、関連する二つのセッションが営まれました。一つは、初日午後に行われたテーマ部会「犯罪・災害リスクとコミュニティ」です。いま一つは、2日目昼食時に行われたラウンドテーブルです。前者では、震災ボランティアについての詳細なレポート、コミュニティの役割についての理論的考察など刺激にとんだ報告がなされました。後者では、会員による震災ボランティア活動の報告がなされた後、本学会としての取り組みについて討論がなされました。日本社会学会の例会への参加および学会アピールの作成が提案され参加者の賛同を得ました。

懇親会は、旧巻町のワイナリーでにぎやかに開催されました。地ワインや地ビールをおいしくいただきました。会場への途上、車中から日本海の夕日を見ることができたことも幸運でした。

2日目午後のシンポジウムは、昨年のテーマ部会「大都市における貧困の現在」における議論を引き継ぐもので、「都市社会学は『貧困』にどう向き合うか」というテーマで行われました。西澤報告は、Z・バウマンを手がかりに、放浪化された貧者と定住者の間の亀裂の大きさを指摘し、前者が居場所を持たないにも関わらず貧困が社会問題化されつつあるのは、現代が情報戦の時代であり、貧者が露呈し可視化したためであると述べられました。松宮報告では孤独死とコミュニティあるいはネットワークの関連が、文報告では温泉リゾートにおける女性労働の再編がそれぞれ調査にもとづき報告されました。いずれの報告・コメントとも興味深く、2年にわたるシンポジウムの意義があったものと感じました。大変勉強になりました。

最後になりましたが、すばらしい環境で討論や懇談ができましたことを、新潟大学の渡邊登先生はじめ院生・学生そして事務局の皆さま方に感謝いたします。

総会の記録

総会は、大会1日目の9月7日（水），下記の次第にそって行われました。

1. 開会の辞（玉野和志 常任理事）
2. 会長挨拶（町村敬志 会長）
3. 開催校挨拶（渡邊登 会員）
4. 座長推挙（松菌祐子会員を選出）
5. 諸報告

(1) 2010 年度理事会報告

町村敬志会長より、2010 年度の理事会に関する報告がありました。

(2) 2010 年度企画委員会報告

早川洋行常任理事（企画委員会委員長）より、2010 年度の企画委員会活動についての報告がありました。

(3) 2010 年度編集委員会報告

玉野和志編集委員会委員長より、2010 年度の編集委員会活動についての報告がありました。

(4) 国際交流委員会報告

青木秀男国際交流委員会委員長より、韓国地域社会学会との交流についての報告がありました。

(5) 新入会員紹介

浅川達人事務局担当理事より、新入会員 12 名の紹介があり、全員拍手をもって承認されました。

(6) その他

渡戸一郎常任理事より、JST による本学会誌の電子ジャーナル化についての報告がありました。

6. 第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）選考委員会報告および授与式

西村雄郎選考委員長より選考過程および結果の報告があり、青木秀男編著『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』（ミネルヴァ書房 2010 年 11 月）を第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）受賞作品とすることを決定しました。

7. 議事

(1)2010 年度決算および監査報告

浅川達人理事から2010年度決算についての報告、次いで江上渉監事から監査報告があり、承認されました。

(2)2011 年度予算承認の件

引き続き浅川理事から2011年度予算についての説明があり、承認されました。

(3)役員選出の件

1) 選挙管理委員の推挙

町村会長より小山雄一郎会員ほか4名の会員を選挙管理委員に推挙するとともに、小山会員に選挙管理委員長を委嘱することが提案され、承認されました。

2) 以下、役員選出規定に基づき投票が行われました。投票結果は以下のとおりです(敬称略)。

会長選挙 谷富夫 19 票 (次点: 玉野和志 16 票)

理事選挙

全国区 (4 名) 玉野和志 32 票, 江上渉 18 票, 浅川達人 15 票, 稲月正 15 票 (次点: 後藤範章 13 票)

地方区 (各地区 1 名)

北海道・東北地区 山口恵子 34 票 (次点: 高木竜輔 3 票)

関東地区 後藤範章 23 票 (次点: 武田尚子・西澤晃彦 各 4 票)

中部・関西地区 鯉坂学 10 票 (次点: 山本かほり 8 票)

中国・四国・九州地区 西村雄郎 21 票 (次点: 二階堂裕子 6 票)

監事選挙 (2 名) 武田尚子 8 票, 西澤晃彦 8 票 (次点: 渡戸一郎 6 票)

(4) 新事務局について

町村会長から事務局を明治学院大学浅川達人研究室から愛知県立大学山本かほり研究室への交替が説明され、承認されました。

(5) 次回大会の件

町村会長より2012年度の大会(第30回大会)を2012年9月8日(土)、9日(日)に、立教大学で開催する旨の報告があり、承認されました。また、大会開催校を代表して立教大学の水上徹男会員より挨拶がありました。

8. 閉会の辞(早川洋行 常任理事)

2010 年度決算報告および 2011 年度予算

2010 年度決算報告 (2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日)

収 入				支 出			
項目	予算	決算	備考	項目	予算	決算	備考
入会金	30,000	28,000	14名分	消耗品費	10,000	0	
学会費	1,150,000	1,535,000	一般259名, 学生60名	通信費	175,000	104,058	ニュース発送など
広告収入	50,000	50,000	10年度分	ニュース印刷費	100,000	50,820	
雑収入	20,000	20,708	複写権収入等	年報印刷費	790,000	750,000	第28号450部
年報販売	150,000	126,600		大会開催費	150,000	0	
				役員・委員会費	250,000	33,900	役員・委員旅費補助含む
				事務局費	224,000	78,300	事務局手当、アルバイト代含む
				学会賞費	15,000	9,660	
				企画委員会費	60,000	143,340	
				編集委員会事務局費	40,000	18,310	
				国際交流費	30,000	56,000	
繰越金	444,142	444,142		予備費	142		
計	1,844,142	2,204,450			1,844,142	1,244,388	

次年度繰越金 960,062

2011年度予算案（2011年4月1日～2012年3月31日）

収入			支出		
項目	予算	備考	項目	予算	備考
入会金	30,000	15人分	消耗品費	40,000	文具、封筒等
学会費	1,150,000		通信費	200,000	
広告収入	50,000	09年度分	ニュース印刷費	100,000	350部×2回、400部×1回
雑収入	20,000	利息、複写権収入等	年報印刷費	500,000	第29号(2011年号)450部
年報販売	150,000		大会開催費	300,000	第29回、第30回大会
			役員・委員会費	350,000	役員・委員の旅費補助を含む
			事務局費	300,000	事務局員手当、アルバイト代、事務局員交通費及び年報販売業務費を含む
			学会賞費	15,000	
			企画委員会費	130,000	非会員旅費を含む
			編集委員会事務局費	50,000	編集関係通信費、事務局員手当を含む
			国際交流費	30,000	
			予備費	345,062	
繰越金	960,062				
計	2,360,062			2,360,062	

学会財政の再建に向けて

会長 谷 富夫

会員の皆様には日ごろから学会運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、これまで大会総会や学会ニュース等で度々お伝えしてきましたように、本学会の財政はここ数年、危機的状況が続いています。予備費の取り崩しも、そろそろ限界にきています。昨年度の執行部のご尽力でなんとか当面の破綻は免れましたが、抜本的な見直しが必要な時期にきていることは、私も町村敬志前会長から引き継ぎを受けています。

そこで新理事会は、去る10月30日開催の第3回理事会においてこの問題に取り組むことを決めました。会費の値上げ幅等、すべてはこれからですが、来年9月の大会総会で提案させていただくべく準備を進めて参ります。

なお、会費問題はもっと大きな枠組みの中で検討されなければなりません。私たちも前期理事会に引き続き、会費納入率の改善に鋭意努める所存です。また、会員サービスの向上策も、値上げ案とセットで提案させていただこうと考えています。たとえば、若手研究者が国際会議等で報告する際の旅費を補助できないだろうか、といった意見が先日の理事会では出ていました。また、企画委員や編集委員ほか各種委員等の皆様の出張旅費が40%しか補助できていない現状もあります。

以上の検討に際しまして、会員の皆様のご意見、ご提案を是非とも承りたく、ここにお願ひ申し上げる次第です。事務局または私まで何なりとお申し越してください。ともあれ、皆様にはたいへんご迷惑をおかけいたしますが、ご理解とご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。

2009年度臨時総会の記録

9月8日（木）、新理事会終了後の午後1時から臨時総会が開催されました。谷富夫会長より以下の報告があり、承認されました。

1. 役員選出規定第6条に基づき、理事のうちから浅川達人、江上渉、玉野和志を常任理事として指名した。
2. 理事のうち、各種委員会の委員長は以下のとおり。

〔企画委員会〕 委員長：浅川達人理事 〔編集委員会〕 委員長：江上渉理事

〔国際交流委員会〕 委員長：稲月正理事 〔学会賞選考委員会〕 委員長：西村雄郎理事

3. 各委員会担当理事を除く各委員会委員および日本都市社会学会若手奨励賞推薦委員については人選中であり、総計でかなりの数にのぼるので、会員各位のご協力を賜りたい。

第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）受賞作品の紹介と選考理由

2011年度日本都市社会学会賞（磯村記念賞）選考委員会は、3月6日（日）及び9月7日（日）の2回にわたり開催され、次の作品を第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）受賞作品とすることを決定した。

1. 受賞作品

青木秀男編著『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティー』 ミネルヴァ書房 2010年11月

2. 受賞理由

本年度の都市社会学会賞の審査対象となった作品は、都市社会学会会員が執筆した2009年1月から2010年12月末日までに著した24冊であった。これを2段階の審査によって5冊に絞り、8月7日の都市社会学会賞選考委員会で最終的な審査を行った。

受賞作となった青木秀男編著『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティー』（ミネルヴァ書房2010年11月）は、青木秀男と関西在住の7名の若手研究者によって結成されたホームレス研究会の研究成果として著されたものである。本書は、日本の産業構造転換で生じた90年代半ば以降の「寄せ場」の解体とそのメカニズム、そこから押し出され激増した「ホームレス」の実態を、「排除」と「包摂」という観点から実証的に分析し、ホームレス問題の今日的意味を明らかにしている。さらに、本書は、共著である特性を生かし、執筆者個々の研究スタイルに応じた方法によって、ホームレス問題の歴史的・空間的・労働現場、労働市場、家族、ジェンダー、宗教、支援といった多様な局面のリアリティーを描きだしており、磯村英一氏の名前を冠した都市社会学会賞に最も相応しいものとして審査委員から高く評価された。

なお、「もんじゃ」を基軸に東京のウォーターフロントのマクロな変化とローカルな「月島」の変容の両方の都市空間の成り立ちを描いた武田尚子『もんじゃの社会史』（青弓社2009年1月）、家族外ネットワークのあり方が家族内の連帯、結婚意思と定住志向に及ぼす影響や、都市化がネットワークと家族の連帯との関係にもたらす影響を、首都圏と地方都市在住者への調査データから量的に分析している野沢慎司『ネットワーク論に何ができるのか』（勁草書房2009年3月）についても、審査の過程で高い評価が与えられたことを付言しておきたい。

（日本都市社会学会賞選考委員長 西村雄郎）

国際交流委員会報告

2010年に韓国地域社会学会との交流協定が締結され、2011年より2年間の交流が始まっています。今年度は本学会側から報告者を派遣する順番となっており、11月11日・12日に韓国・釜山の東亜大学校プミンキャンパス社会科学大学で行われる大会で、浅川達人会員が「学生ボランティアによる東日本大震災からの復興支援活動—岩手県大槌町吉里吉里地区を事例として」と題して報告します。本大会には谷富夫会長、町村敬志前会長も出席の予定です。

なお、2012年度は、韓国地域社会学会側から報告者をお招きする番になります。また、協定は2年更新ですので更新をふくめ今後の交流方針について国際交流委員会・理事会で検討を進めて参ります。

（国際交流委員長 稲月 正）

編集委員会からのお知らせ

○編集委員会事務局の移転について

編集委員会の体制が新しくなったこととともない、編集委員会事務局がこれまでの首都大学東京・玉野研究室から立教大学社会学部・江上研究室に移転しました。『日本都市社会学会年報』の編集事務につきましては、基本的にこれまでの編集委員会の方針を踏襲しながら進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。

新しい編集委員会事務局の連絡先は次のとおりです。

〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学社会学部 江上渉研究室内

日本都市社会学会編集委員会事務局

E-mail : egami@rikkyo.ac.jp

電話 : 03-3985-4710 (江上研究室直通) ファックス : 03-3985-2833 (社会学部受付)

○『日本都市社会学会年報』30号(2012年発行) 自由投稿論文・研究ノートの募集について

編集委員会では、『日本都市社会学会年報』30号(2012年発行)に掲載する「自由投稿論文」,「研究ノート」および「書評リプライ」を募集します。投稿を希望される会員の方は、学会ホームページまたは『年報』29号(2011年発行)に掲載された編集規定、投稿規定、および執筆要項をご覧の上、審査用原稿(3部)を2011年11月30日(消印有効)までに上記の編集委員会事務局あて、余裕をもって郵送して下さい。なお25号より英文要約を掲載することとなっております。投稿ご希望の方はこの点お含みおき下さい。会員諸氏の奮っての投稿をお待ちしております。

なお、投稿資格のないもの、投稿期限を過ぎたものは一切受け付けられませんので、くれぐれもご注意ください。
(編集委員長 江上 渉)

会員の皆様へのお知らせ

1. 会費納入のお願い

第29回大会に参加されず2011年度の年会費を納入されていない会員、および過年度の年会費の納入がすすんでいない会員の方には、学会費納入用の振り込み用紙を本ニュースに同封いたしました。お早めに納入くださいますよう、お願い申し上げます。極力、全額の納入をお願いいたしますが、単年度分の振込につきましてもお受けいたしますので、是非とも納入くださいますよう、重ねてお願い申し上げます。

本学会が利用しておりますゆうちょ銀行は、平成21年1月に全国銀行データ通信システムに接続することにより、全国の金融機関(一部を除く)と相互に振込ができるようになりました。他の金融機関から本学会の口座に振り込む場合は、以下の店名・預金種類・口座番号・受取人名をご指定ください。

銀行名..... 郵貯銀行

預金種類..... 当座

金融機関コード.... 9900

口座番号..... 0703976

店番..... 019

受取人名..... ニホントシシャカイガツカイ

店名(カナ)..... 〇一九(ゼロイチキョウ店)

2. 第30回大会について

第30回大会は、立教大学で開催されます。

3. 理事会報告

(1)2011-2012年度第1回理事会報告

2011年度第1回理事会は9月7日(水)新潟大学にて大会1日目終了後に開催され、理事の役割が審議されました。詳しくは「臨時総会の記録」の項をご参照ください。

(2)2011-2012年度第2回理事会報告

2011年度第2回理事会は、9月8日(日)新潟大学にて大会終了後に開催されました。

各種委員長からそれぞれの委員候補が確定したことが報告されました。委員は以下の通りです。

企画委員：浅川達人（委員長） 西村雄郎 鯨坂学 内田龍史 高木恒一 武田尚子 田中研之輔 二階堂裕子
原田謙 南川文里 山本薫子

編集委員：江上渉（委員長） 後藤範章 飯田俊郎 浦野正樹 黒田由彦 立山徳子 妻木進吾 西田芳正
松林秀樹

国際交流委員：稲月正（委員長） 山口恵子 高畑幸 立山徳子 田中研之輔 文貞實（日韓交流担当）

学会賞選考委員（継続）：西村雄郎（委員長） 牛嶋千尋 今野裕昭 高木恒一 中筋直哉 玉野和志
西田芳正 松本康 文貞實 安河内恵子

(3) 2011-2012年度 第3回理事会報告

2011年度第3回理事会は、10月30日（日）愛知県立大学サテライトキャンパスにて開催されました。

①学会奨励賞推薦委員の選出・委託、②学会財務状況を改善するための方策について、③年報のアーカイブ化作業について、④韓国・地域社会学会との交流について、⑤第30回大会（30周年記念大会）について協議しました。その他、社会学コンソーシアム関連事項等々について協議しました。

（事務局担当理事 山本かほり）

震災関係作業部会より

この作業部会は、去る3月11日の東日本大震災の発生を受け、6月12日の前理事会で設置を承認されました。浅川達人、山下祐介、渡戸一郎が担当することとなり、7月以降、東日本大震災に関する会員の活動について情報収集を行い、9月8日の学会大会2日目には緊急プログラムとして「東日本大震災ラウンドテーブル」を開催しました。岩手県大槌町の支援活動を行っている浅川会員、福島からの避難者や外国人への支援活動に関わった山本薫子会員、震災後早い時期に被災地を回り、日本社会学会での震災関係特別セッションの企画に関わる山下祐介会員に報告をしていただき、本学会としての今後の取り組みについて学会員の間で意見交換をしました。

引き続き現理事会の下、「震災関係作業部会」として活動を継続していきますが、今回の広域的で複合的な激甚災害は広範な問題のひろがりを見せています。長年日本の都市社会の研究に取り組み、一定の学的知の蓄積がある都市社会学には何を提起することが求められているのか、会員の皆さまとともに一定の課題整理を行い、研究上の方向性を提言にまとめていきたいと考えています。

つきましては、この作業部会に対する情報提供をお願いするとともに、積極的にご参加下さる会員を募集いたしますので、よろしく願いいたします。

連絡先：明星大学人文学部 渡戸研究室 E-mail: watado@soci.meisei-u.ac.jp

（震災関係作業部会事務局長 渡戸一郎）

第4回日本都市社会学会若手奨励賞候補の文献調査および推薦に関するお願い

日本都市社会学会若手奨励賞内規にもとづき、文献調査を行います。あわせて自薦・他薦の応募を受け付けます。若手奨励賞は「著書の部」と「論文の部」に分け、それぞれについて選考を行います。多くの方々からの応募をお待ちしています。

対象：今回、対象となるのは、

(1)2010年1月から2011年12月末日までに公刊された著書・論文であって、

(2)公刊時点で、著者が、博士（後期）課程入学後10年以内であった、日本都市社会学会会員の研究業績です。

文献調査：上記の基準を満たす著書・論文を発表した若手会員は、同封の調査用紙に所定事項を記入の上、2010年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。この情報は、選考対象の母集団を構成するものですので、条件を満たすすべての研究業績についてご記入下さい。

自薦・他薦：上記の基準を満たす著書・論文のうち、同賞にふさわしい「都市社会学に関する、将来性に富み、奨励に値する、優れた研究業績」をご推薦下さい。会員であれば、だれでも推薦者となることができます。自薦も歓迎します。なお、他薦であって、上記の対象基準(2)を満たしているかどうかを確認できない場合には、その旨の注記をお願いいたします。

同封の調査用紙の自薦・他薦欄に所定事項を記入の上、2012年1月末日までに学会事務局までお送り下さい。
宛先/問い合わせ先：学会事務局の住所は、本ニュース1頁目にあります。予算の関係上、送料は自己負担でお願いいたします。また、この件についてのお問い合わせは、学会事務局までe-mailでお願いします。

選考対象のリスト作成は、若手会員自身による文献調査報告や自薦がまずは基本となります。該当される方は、ぜひとも積極的にご対応下さい。なお、若手奨励賞用の調査用紙・自薦他薦用紙は学会WEBサイトからダウンロードできますので、ご活用ください。
(日本都市社会学会賞選考委員長 西村雄郎)

会員異動

新入会員 (2011年9月6日および10月30日理事会承認)

<関東地区>

岡村圭子 獨協大学 (2011年9月6日理事会承認)
北川 由紀彦 放送大学 (2011年10月30日理事会承認)
寄藤 昂 芝浦工業大学 (2011年10月30日理事会承認)

<中国・四国・九州地区>

濱西栄司 ノートルダム清心女子大学 (2011年9月6日理事会承認)

学会事務局より

- ◆第29回大会は、無事開催することができました。開催校の渡邊登会員をはじめ関係者のみなさんに、事務局からあつく御礼申し上げます。
- ◆第29回大会に参加された会員の皆様には、「学会ニュース」「文献調査用紙」「推薦用紙」を同封いたしました。
- ◆第29回大会に参加されなかった会員の皆様で、2010年度までの会費納入者の皆様には『日本都市社会学会年報29号』と「学会ニュース」、「文献調査用紙」、「推薦用紙」を同封いたしました。なお、2011年度年会費振込用の「振込用紙」も同封させていただいておりますので、お振込をよろしくお願いいたします。
- ◆第29回大会に参加されなかった会員の皆様で、2009年度までの会費に未納分がある皆様には、「学会ニュース」、「文献調査用紙」、「推薦用紙」を同封し、『日本都市社会学会年報29号』は同封しておりません。未納分をお振込いただき次第、お支払いいただいた年度の翌年発行の年報をお送りさせていただきますので、同封の「振込用紙」によりお振込をよろしくお願いいたします。
- ◆学会事務局の移転について：2011年度から2013年度までの2年間、学会事務局が愛知県立大学教育福祉学部山本かほり研究室におかれることになりました。なお、学会ニュース1ページ目に新事務局の連絡先が掲載されていますが、会員の皆様からのお問い合わせやご連絡に関しては、前学会事務局同様、emailもしくはファクシミリにてお願いできれば幸いです。

(事務局担当理事 山本かほり)